

令和３年度 府立菟道高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（最終評価）

R4. 3. 30

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
１） 集団の中で切磋琢磨し人格の形成を図る。 ２） 個人の尊厳を重んじ、知・徳・体の調和のとれた発達を図る。 ３） 地域に根ざした一層豊かな学校文化、「菟道文化」の創造を図る。	○ 落ち着いた学習環境を維持し、あらゆる教育活動において粘り強い指導を行った。学校評価アンケートでは教育活動について一定の評価が得られた。 ○ スマートスクール推進校の指定を受け電子黒板等の設備が整い、ICT活用を意欲的に推進することができた。また公開授業等の授業交流を通して教科指導力の向上を図った。授業改善に向けた取組は継続する必要がある。 ○ 特色化事業やUJI学においては、コロナ禍の影響で発表や参加の機会が限られたが、生徒は真摯に、かつ意欲的に取り組むことができた。コロナ禍の状況を見据え、学年、担当分掌、教科等で取り組み時間の確保や担当者間での調整が必要である。また、令和４年度入学生の総合的な探究の時間への移行の工夫が課題である。 ○ 外部機関とも連携しながら心身に悩みを抱える生徒や特別支援を要する生徒への指導を行った。今後も全教職員の知識と技能のスキルアップを目指す。 ○ 広報活動では、学校公開・説明会・ＨＰ等の中で本校の魅力発信のために、在籍生徒の教育活動や学校生活の様子をさらに効果的に発信することが課題である。 ○ 希望進路実現に向けて最後まで粘り強く丁寧な指導を続けた。納得のいく進路実現のため全校体制で３月まで指導していく組織作りが必要である。 ○ ２ヶ月に及ぶ臨時休業を含むコロナ禍の影響で、学校行事や平素の教育活動の変更を余儀なくされたが、柔軟に工夫を凝らしながら教育活動を行うことができた。	○ 本校の校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」をすべての教育活動の中に具現化するため、より質の高い授業を実践し、部活動をはじめ特別活動の充実を図る。 ○ 種々の課題を抱える生徒に対し、手厚い指導を行い、安心して学校生活が送れるような指導体制を整える。 ○ スマートスクール推進事業の成果と課題を踏まえ、ユニバーサル・デザインの観点に立ったＩＣＴ教育を推進していく。 ○ 広報活動において、卒業生や在校生が直接中学生や保護者に語る機会を設け、菟道高校生の良さをアピールし生徒募集につなげる。 ○ 特色化事業で得た知見を基に「総合的な探究の時間」の活動内容を具体的に計画し、円滑に取り組むことができるよう図る。

令和3年度 府立菟道高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価 分掌領域

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
教務部	・学習指導の充実のための研究・実践を行う。	・新学習指導要領や高大接続改革を見据えた「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる授業について、その指導方法の工夫改善のための研究や実践を行う。	C	C	・通常業務についてはほぼ滞りなく実施できたが、今年度具体的方策に挙げた項目については、教務部として十分に研究できなかった。 ・令和4年度入学生からの新教育課程実施に向けての具体的な準備を進めたい。
		・ICTを活用した授業について、さらに研究を進める。また、可能な範囲で個に応じた学習内容の提供（アダプティブラーニング）について研究する。	C		
		・令和4年度実施の教育課程を踏まえた探究型学習について、教科会議や教科主任会議で具体的な準備をすすめる。	B		
生徒指導部	・自他の存在を大切にすることの育成を図る。	・道徳教育等の講演会や講話を通じて、自己肯定感の醸成を図るとともに、他人を尊重する心の教育を行う。	B	B	・道徳教育においては各学年それぞれに必要な課題を踏まえて講演会を実施することができた。来年度は「成人年齢引き下げに係る講演」を実施する予定にしている。 ・携帯電話に係る指導件数は27件と例年並みであるが、来年度はBYOD初年度になるため、規定についての見直しを行った。 ・学年部の先生の協力を得て、いじめの早期発見、早期対応ができた。 ・自発的な挨拶については継続して指導が必要である。 ・菟道祭は実施できなかったが体育祭と代替事業は実施することができた。 ・自転車事故件数は9件と年々減少しており指導の成果が見られるが、「ながら運転」やイヤホン等の指導については課題が残っている。 ・校内で盗難があった。生徒の防犯意識を高めるとともに、ロッカーの利用を推進していく必要がある。
		・学年部、他分掌と連携して、生徒に携帯電話・スマートフォンに関する規定を守らせることで、落ち着いて学習できる環境作りを行う。携帯電話・スマートフォン等に係る指導件数を30件以内に抑える。	B		
		・いじめアンケートを活用して、いじめの早期発見と対応を行い、いじめのない生徒集団の形成を目指す。	A		
	・社会の一員としての自覚と必要な技能の育成を図る。	・校門指導、身だしなみ指導を通じて、基本的生活習慣の確立を図るとともに、教職員が率先して挨拶をすることで、生徒も自発的に挨拶を行う雰囲気在校内に醸成する。また、講演などを通じてSNSに係る諸問題を理解させるとともに、学年部や教科と連携して適切に利用する指導を行う。	B		
	・誇りのもてる学校づくりへの取り組みを推進する。	・学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動を推進し、生徒が主体的に取り組める活動の場を提供する。 ・学期に1回、部活動会議を開き、菟道高校の代表としての責任と自覚を持たせ、主体的に活動する部活動を組織する。	B		
進路指導部	・生徒一人一人が自らの在り方生き方や能力・適性等について主体的に考え、理解し、自らの力で将来を切り拓こうとする態度を育成する。 ・3年間を見通した進路指導計画を企画・立案し、体系的・組織的な進路指導を実現する。	・交通安全指導を通じて、生徒の安全に対する意識を高めるとともに、交通ルールの周知を図ることで、登下校時の生徒の安全を守る。年間の交通事故件数を15件以内に抑える。 ・昼休みの巡回指導を行うことで、生徒の異常やトラブルなどの早期発見に努める。	B	B	・キャリア教育講演会や分野別説明会、人権学習等の進路行事を通じて、生徒一人一人の望ましいキャリア形成と人権意識の向上を促進することができた。 ・他分掌や教科との連携を密にし、進路HRや課外講座、模擬試験等の取組を効果的に実施できるよう努めた。 ・進路に関する情報を紙媒体やデータで提供した。また、オンデマンド方式の小論文指導講座を実施した。
		・自分の進路を主体的に選択・決定できるようにする「キャリア教育」、幅広い人間性や人権意識を育成する「人権教育」を計画的に実施する。	B		
		・進路HR、進路講演会、課外講座、模擬試験等の進路行事を効果的に実施できるよう、他分掌・教科と連携を密にして企画・運営する。	B		
		・入試動向や模擬試験を分析・研究し、得られた情報は各分掌・教科と共有する。	B		
		・各教員が進路指導に関する指導力向上を図れるよう、各種進路研修会の案内等の情報を提供する。	B		

図書部	・教科や他分掌との連携、図書館の刊行物の発行や図書委員会活動などにより、生徒が落ち着いて読書に親しむ環境をつくり、良いかたちで読書習慣を身につけられるよう指導を行う。 ・視聴覚機器の整備・充実を図ることで、ICTを用いた授業その他諸活動での有効利用を図る。	・教職員推薦図書の紹介冊子『菟道の泉』を年1回、図書館便り『あじろぎ』を月1回発行することで、読書の楽しさや「読む」という行為の大切さを発信し、「言葉の力」の育成を図る。また、教科や分掌と連携し、教科横断的な学習も視野に入れつつ積極的な読書指導を進める。	B	B	様々な取り組みを行ったことで、生徒への貸出冊数は昨年度より上昇した。しかし、一方で一冊も借りていない生徒も増加しており、読書に対する両極化が来年度以降の課題といえる。 図書委員会の活動については委員会の開催や各種告知・宣伝文の発行など計画的に実施した。生徒が図書委員として熱心に取り組んでくれた。
		・図書委員会活動を活発に行い、「ライブラリーニュース」の発行や、図書館でのブックフェアを通じて読書に親しむ機会を提供する。 ・エクセレントリーダー賞やベストリーダー賞を設けることで「多読の勧め」を行い、生徒の読書習慣の啓発を行う。	B		
		・授業や行事の充実に向けて、教科や他分掌と連携して視聴覚機器の有効利用を進める	B		
保健部	・自他の生命を尊重するとともに自己の健康管理に努め、心身ともに健康で安全に生き抜くたくましい身体と豊かな心を養う。 ・環境に対する関心を高め、環境の美化、保全のため主体的に実践できる態度の育成を図る	・保健委員会活動等を通じて身近な健康課題について考える機会を提供し、主体的に自己の健康管理を実践できる力を養う。また講演会等を通して性に関する問題や薬物乱用防止等の指導を行う。 ・教育相談の充実を通して、安心安全な学校生活を送れるよう支援する。様々な課題を抱える生徒については、家庭や地域、関係諸機関、スクールカウンセラーと連携しながら発達段階に応じた教育的、心理的な支援を行い、気軽に相談できる体制づくりに努める。ユニバーサルデザインの視点に立った教育活動を学校全体で行えるよう、情報交換を密に行い研修会の充実を図る。	B	B	・新型コロナウイルス感染症対策として、全校体制でできる限りの感染予防に努め、現在も継続している。 ・保健委員会で、感染症予防のポスター作成、保健委員会だより、昼食時の放送を通じ、感染防止や衛生管理意識の向上に努めた。 ・定期健康診断は学校医と連携し、感染対策を行いながら例年とはスケジュールを変更して行った。現在も日々の健康観察を継続している。 ・保健教育講演会は、感染症対策を講じて実施できた。生徒たちは講演の内容について理解を深めた。 ・学校生活への不安、家庭環境、発達の課題から不適応を起こす生徒が目立った。昨年度に引き続き、SC配置時間を増加し、週1回継続的に相談対応できた。次年度も同様の配置時間を希望し、丁寧な対応を行いたい。家庭環境に課題のある生徒については、SSWの先生とも連携することができた。 ・支援センターの巡回相談を行った。感染拡大の影響でリモートでの面談になることもあったが、今後もとぎれることなく支援を続けていきたい。
		・美化委員会活動等を通じて主体的に清掃活動に取り組む態度を養い、環境美化及び環境保全の啓発活動を行える体制作りをする。			
			A		
			B		
総務企画部	・中学校や地域社会に対して、学校への理解と信頼を深めるために広報活動全般の推進を図る。 ・ICT教育の推進、支援を積極的に行う。	・学校説明会、学校公開、部活動体験をはじめ、中学校訪問や塾の説明会、さらにUJI学などの運営・調整を通して、中学生や保護者、地域の人たちが本校への理解を深められる取り組みをする。	A		・学校公開では、学校紹介及び授業体験を実施した。中学生は希望する授業を受け、満足度も非常に高かった。また学校説明会では、生徒による学校紹介「Todoh Collection」を今年度初めて実施し、好評を得た。
		・学校説明会・学校公開等の年間参加者が1000人を越える広報活動を行い、説明会参加者アンケートの満足度95%以上を目指す。 ・学校案内、ポスター、ホームページ（HP）、Classi等の広報媒体の	B		

		作成、管理、更新を行い、広報活動全般の推進を図る。 ・ P T A 諸活動を全会員に周知するとともに、積極的参加を募るよう努める。 ・ I C T 教育の計画、提案、ハードウェアの整備等に努める。	B B	B ・ 学校案内及びポスターは年度当初早々に完成し、スムーズな広報活動につながった。 ・ 本校の広報活動をまとめたリーフレットを作成し、中学生に配布した。例年、広報スケジュールや実施内容に関わる問い合わせが多かったが、今年度はこのリーフレット配布により、問い合わせ件数は格段に減少した。 ・ ホームページは府内サーバの不調により、スムーズな更新等ができない期間があった。 ・ 来年度以降の B Y O D 導入に向けて、他分掌と連携しながら、計画及び運営に関わりたい。
第 1 学年部	・ 基本的生活習慣を身につけ、集団生活の中で個人を尊重し自主及び自律の精神を養う。	・ 自主的で自律性のある行動に向け、学校生活における主体的な取組を充実させる。校外学習や文化祭などの計画・運営、特色化事業における協働的な学びを実施する。 ・ 授業を大切にし、授業を中心として自ら予習・復習ができる学習方法を身につける取組を推進する。家庭学習習慣の定着に向け、手帳や学習記録を活用することで、授業を大切にできる継続的な取組を実施する。 ・ 進路希望を実現するために、必要な諸条件や課題を理解させるとともに、3 年間で取り組む学習や活動を理解させ実行に結びつけることを通じて、生徒の多様な側面における成長を促す。	B B B	B 学校行事の実施に向けて、委員会活動を通じた自主的な活動を促進することができた。次年度の学校行事に向けて、引き続き取り組みを継続する。 学校評価アンケート7における肯定率は8割を超え、授業を大切にしようとする意識は定着しているといえる。また、家庭における学習習慣の定着には、学習記録シートから課題のある生徒もみられることから、生徒の状況に応じた指導を実施したい。 学校評価アンケート15の肯定率は8割程度であり、取組の成果はみられる。今年度の取組を2年次に活かすため、進路実現に向けた具体的な計画・行動に向けた取組を計画する。
第 2 学年部	・ 自己理解を深化させるとともに、集団生活における自己のあり方を考えさせる。 ・ 進路希望の実現に向けて、基礎学力の定着と主体的に学びに向かう姿勢を育成する。	・ 個に応じたきめ細かい指導を心がけ、高校生として望ましい規範意識、生活習慣を身に付けさせる。 ・ 自己を尊重し他者の個性を理解する態度を育成するため、スモールステップを自分自身で評価し、達成感・自己肯定感を高める指導を行う。 ・ 授業を中心とした予習、復習の学習スタイルを定着させ、学習と部活動の両立を実現させる。	B B B	B ・ 概ね規則正しく、落ち着いた学校生活を送った。遅刻が目立つ生徒やルールが守れない生徒が一部いた。 ・ 学校に来にくい生徒もいたが、家庭、他分掌と連携し指導を継続した。 ・ コロナ禍において他者との協働や意思疎通が減少し、文化祭等の学校行事が中止となる中、連帯感や達成感を感じることの難しさがあった。研修旅行への取り組みを通して、集団の中での自己のあり方や他者の理解を深められたことは大きかった。 ・ 家庭学習や生活状況についての記録を継続的に取ることで、生徒は自己理解を深め、計画的に学習や生活に向かうようになった。部活動については十分な活動を保障できなかった。

		・進路学習や手帳活用を通してP D C Aサイクルを確立させ、家庭での学習計画、2年後を見据えた進路計画を立てさせる。	B	たことが残念である。 ・進路指導部と連携するLHRや学年独自の進路学習を重層的に継続して実施した。生徒一人一人の進路に関する意識は高まった。感染症対策のため例年通り実施できなかった講習や模擬テストがあった。
第3学年部	・多様化、複雑化する社会に適応し、将来を切り開くために学校生活を通して自ら判断し行動できる生徒を育成する。 ・進路希望実現のため、最後まで粘り、やり遂げる生徒を育成する。	・スマホやSNSに関する指導、服装、挨拶、遅刻指導、また交通安全指導などの生活指導を充実させ、高校生という立場だけでなく、社会人として責任ある行動ができるよう指導する。 ・面談を通じて自分自身と向き合わせる機会をもたせ、自らの課題を解決するための過程を模索させる。	B	A ・責任ある行動ができるようになった面もあるが、とりわけ受験期に遅刻や欠席する生徒が増えた。いかなる時も体調管理、時間管理は卒業後も求められる。高校生活を振り返り、自身の行動で改善を要する部分は各自で改善することを期待したい。 ・進路希望実現に向けて複数回、面談を実施した。また、進路指導部とも情報交換を密に行い、連携した指導ができた。講習は多くの先生方の御協力を賜り、全教科において講座を展開し、自習室は土曜日、長期休業中も可能な限り開設した。 様々な進路実現に向けたサポートができ、生徒一人ひとりがしっかり学習することができた。
		・進路指導部と連携し、進路行事を充実させることで生徒の進路研究を深化させる。また、学習の核である授業に積極的に参加させる指導を行う。さらに、講習や自習室などを活用させて、生徒一人ひとりの学習活動を充実させる。	A	
			A	
事務部	・予算計画に基づく効率的かつ効果的な予算執行	・本校の学校運営経営方針や経営目標を達成するために、教育内容を理解し、より効率的な予算執行を行うため各部・各教科へのヒアリングを十分行う。 ・計画的な予算執行の中にも、時機に応じた瞬時の対応が図れるよう努める。 ・府立高校特色化事業をはじめ、本校の教育内容に沿う府の事業等を積極的に活用、推進し、特に短期経営目標であるICT教育を推進していく。	B	B ・新型コロナウイルス感染症が蔓延するなかで、感染防止対策として学校教育活動継続事業費等を活用し、トイレの自動水栓化工事を行った。また、校内の無線ネットワーク環境の整備を行うなど、ICT教育の推進に努めた。来年度から生徒1人1台学習用端末導入となる中で、引き続き各分掌等と連携しながらICT教育の推進に努める。 ・施設・設備の不良箇所について早期発見、早期修繕に努め、学校環境を整えることができた。 ・文書の取扱いが不十分な部分があった。今後は、文書や個人情報の取扱いに細心の注意をはらい、適切に行う。 ・学校公開等で使用する学校紹介ポスターを、教職員で連携し今年度から外注にしたことで、情報発信の方法・内容を工夫することができた。
	・安全な施設・設備の管理	・日常的に校内巡視を行い、不良箇所等の早期発見に努める。老朽化した箇所については計画的に修理し、学習環境の充実を進める。 ・工事や修繕の実施は、校内調整を十分に図り、生徒・教職員が安全に学校生活を送れるように計画・執行する。 ・施設・設備の不良に起因する事故を0件とする。	B	
	・効率的な文書事務の徹底	・文書の起案・審査・決裁・施行・廃棄等の取扱いを、文書取扱主任を中心に、事務部および各分掌等へも指導し徹底する。 ・個人情報の管理を適切に行う。	C	
	・学校経営に参画する事務職員の育成	・本校の魅力や特色について情報発信の方法や内容を工夫し、地域や中学生の理解と信頼を得るため、学校説明会および学校公開において、教職員と連携し積極的に参画し、生徒募集につなげる。 ・学校行事等へ積極的に参加・参観し、学校全体の業務や事業について俯瞰し、教育的視点も持ちあわせて業務に活かせる事務職員を目指す。	B	

令和３年度 府立菟道高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 最終評価 教科領域

評価領域 (教科領域)	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価		進捗状況（成果と課題）
			項目	総合	
国語科	新学習指導要領並びに大学入試改革に対応可能な、主体的・協働的で深い学びを意識した授業を行い、社会生活に必要な技能を育む。	・複数の資料を読み比べ、課題解決のために必要な情報を取捨選択できる技能を身につけさせるような授業、課題を設定する。 ・ICTを適宜活用することで、異なる複数の考えに触れさせ、自身の考えをより深化できるような授業を行う。 ・主体的、協働的に課題を解決しようとする意識を育めるような教育活動を行う。 ・図書館、情報処理室を活用しながら、グローバルネットワーク事業との関連の中で、小論文・ポスターセッションを通し、課題解決型の学習活動を充実させる。	C	B	・ICTを活用した授業は浸透してきているが、主体的、協働的な学習については単元の一部に取り入れるにとどまっている。教授型の授業を中心としつつも、適宜主体的、協働的な学習を取り入れ、生徒の国語力を伸ばせるよう工夫していかなければいけない。
	語の意味や文章の構造、言葉の働きや役割を理解し、言語感覚を磨き語彙を豊かにさせる。	・小テストや課題を継続的に課すことで、学習習慣の確立と語彙力の養成を図る。 ・多くの文章に触れさせることで、論理的に文章を読解する手法を身につけさせる。 ・自身の考えや読み取った内容を適当な言葉を用いて相手に伝える力を養成する取り組みを行う。	B		・年間を通じて小テストや演習に取り組み、学習習慣の確率及び知識の定着に努めることができた。今後は習得した知識を活用できるような課題設定をしていかなければいけない。
地歴公民科	・生徒の進路希望実現に向けて、大学入学共通テストをはじめとする多様化した入試に対応できるよう、組織的に取り組む。	・小教科の担当者同士の打ち合わせや意見交換を密にし、計画的な指導を行う。また、教員間での専門分野や経験値の違いをうまく活用し、情報・ノウハウ・教材を共有していき、教科全体の財産を蓄積する。 ・大学入学共通テストをはじめとする多様化した入試に対応し、希望進路の実現に向けて生徒を支えていくために、模擬試験なども活用した粘り強い指導を行う。校内外での研修や研究授業や授業公開を積極的に参加・活用する。・落ちつきある学習環境の確保・維持に努めるとともに、学年部をはじめとする他の分掌との連携を密にし、課題を抱える生徒の把握、組織的な対応などに努め、粘り強い指導を行う。	B	B	・各科目の担当者で連携をしっかりと取ることができた。不測の事態にも組織的かつ臨機応変な対応をすることができた。 ・多様化する入試に対して、授業だけでなく、講習や個別指導を通じて、生徒の希望進路の達成に向けて、粘り強い指導ができた。 ・単元テスト・定期的な小テスト・レポート課題を実施し、生徒の学習習慣の確立につなげることができた。 ・令和４年度から始まる新科目、観点別評価、BYODについては、今後も検討、準備していく必要がある。 ・１年生のSDG's、２年生の九州への研修旅行など学校行事に関連した内容を授業でも取り扱い、生徒の現代社会への関心を高めることができた。
	・より質の高い授業を展開する中で、生徒の持つ次の能力を高めるために、組織的に取り組む。 ①基礎・基本的な学習内容の定着 ②学習意欲を向上、自ら積極的に学ぶ姿勢 ③地理・歴史・公民それぞれの興味・関心 ④現代社会の諸問題についての関心を高め、その解決に向けて取り組む能力	・定期考査以外にも、計画的な単元テストや小テストの実施や、適切な課題やレポートなどを課すことを通じて、基礎・基本的な学習内容の定着と自ら積極的に学ぶ姿勢の向上を図る。 ・生徒の取り組み姿勢や成果に対して、適切なフィードバックを行うことで、生徒の学習意欲を向上させるとともに、観点別評価についても試行していく。 ・本校に整備されているICTを活用した実践を一層充実させ、生徒の地理・歴史・公民それぞれの興味・関心・理解度を高めていくとともに、よりよい活用法を研究する。	B		
	３年間を見通した学習指導を行い、希望進路の実現につながる学力を一人一人につける。	・本校特色化事業や伝統文化事業にも積極的に関わっていく中で、生徒の現代社会の諸問題についての関心を高め、その解決に向けて取り組む能力を高める。	B		

数学科		・より質の高い授業をするよう努めるとともに、実力を育成するための十分な演習時間と質を確保する。	A	B	授業の中で、問題演習の時間と内容の質の確保に努めた。 共通課題だけでなく、各担当講座に対応した課題を提示し学力を伸ばす工夫をした。 ICTを活用した授業を数多く試行錯誤し、指導法を研究した。 共通テストに向けて一定の研究ができた。今年度の結果を基に、次年度以降、さらなる研究が必要である。
		・家庭学習の意識を高めるため、各時の課題を明らかにし、明確な目標を持って学習に取り組み、自ら学力を伸ばす生徒を育てる。	B		
		・ICTを有効に活用する授業について研究する。	A		
		・大学入学共通テストに対応した問題の研究をすすめる。	B		
理 科	自然科学に対する生徒の興味・関心・意欲を高め、知識を身につけさせ、科学的なものの見方・考え方を働かせる。	授業にプロジェクター、電子黒板などのICT教材や演示実験等を効果的に活用する。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を促進する。	B	B	・プロジェクターなどICTは、どの授業でも一定の活用をすることができた。 ・感染拡大防止に十分配慮し、工夫しながら実験やプレゼンテーションを実施することができた。 ・コロナ禍におけるアクティブラーニングの手法など、検討すべき課題は残った。 ・小テスト、課題テスト、ノートや課題の提出など、授業の進捗に合わせて適切に実施できた。
		実験・実習は新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら実施し、レポートの作成方法を指導して全員に提出させる。また高大連携事業などにおける実験・実習やプレゼンテーションを通して、探究的に学ぶ姿勢を養う。	B		
	進路選択に対応できる学力を育成する。	授業の順序や内容を適切に組み立て、効果的な指導を行う。学習内容の定着のため可能な限り問題演習や小テストを実施し、演習ノートの提出等を通して学習状況を確認する。	B		
		小テストや課題テスト等を適宜実施し、基本事項の定着を図る。授業と家庭学習の関連付けを明確にし、学力補充や進学補習にも積極的に取り組ませ、進路実現のために必要な学力を身につけさせる。	B		
保健体育科	・自己の心身を客観的に分析し、自ら調整する力や他者に伝える力を養わせ、健康・安全に個人・社会生活を営むことができるようにさせる。	・運動実践や体育理論、保健学習を通じて、スポーツの歴史や文化、身体の構造、運動の効果を理解させることによって、運動することの意義や楽しさを学ばせる。 ・健康を管理し、改善していくための、情報を提供する「発表」とその情報をまとめる「収録作り」を実践させる。	A	B	・東京オリンピックを振り返りながら、文化やスポーツの楽しさを理解させることができた。 ・発表を通じて、健康につながる知識の習得だけでなく、論理的に表現できる力を養われることができた。 ・偏りなく、種目の選択をさせ、PDCAサイクルに沿って仲間と協力して活動させることができた。 ・用具の使用法や、感染症対策について入念に説明を行い、ガイドラインを則って取り組ませることができた。
	・自己に応じた体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する能力を付けさせる。	・可能な限り生徒の興味関心のある運動スポーツや題材を選択させ、意欲的に取り組むようにさせる。 ・選択制授業を通じて、自ら計画を立案し、集団で運動やスポーツに取り組むことができる基盤を作り上げる。	B		
	・感染症対策等に留意させ、自他の健康・安全について理解を深めさせる。	・事故や怪我がないよう、用具の使用法に留意させることに加え、感染症対策にも留意させ、自他の健康・安全を守らせる。	A		
芸術科	・基礎的・基本的な技術の定着を図り、意欲的に活動する姿勢を育成する。更に、定着した技術を基に独自に応用する能力を身に付けさせる。	・意欲や創造性を引き出せる指導法の研究と教材の精選をすすめ、生徒の創造力を向上させる授業を行う。	B	B	・短縮授業などの限られた時間の中で、教材の精選や指導法の工夫を行った。また、教材を取り上げる順序にも配慮し、様々な局面に備えた授業をおこなった。 ・コロナ禍の中での芸術祭実施に向
	・それらの活動を通じて、自国・他国の文化芸術を尊重する人材を育てる。 ・豊かな創造力を基に、主体的に考え自ら問題	・日常の様々な場面で作品を発表させることにより、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。 ・授業で学んだ事が社会とつながるものにする。	B		

	提起し解決に向けて行動できる能力を育てる。				けて、作品の大きさや発表の形式を工夫した。
英語科	・家庭での学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。さらに、それぞれの希望進路に対応できる実践力を養う。 ・英語学習への意欲・関心を高め、自主的・主体的に取り組む姿勢を身につけさせる。	・学習のねらいを理解させた上で、小テストや課題を計画的に設定し、また模擬試験も活用しながら、学習習慣と基礎学力の定着を図り、実践力育成へとつなげていく。	B	B	・実情に応じて課題や小テストを課し、模擬試験も意識させることで学習習慣の確立を促し、定着度を向上させることができた。 ・GTECに向けて4技能を意識した授業を行い、英検の積極的な受験につながった。ICTを使う方法を教科内で共有し効果的に活用できた。 ・新生活様式下で言語活動に制限があったが、可能な範囲でコミュニケーション活動を取り入れ、外国人指導助手との授業も効果的に行うことができた。来年度入学生の観点別評価については、引き続き研究していく必要がある。
		・GTECを通して定期的に英語運用能力を確認するとともに、4技能それぞれの課題に向けて授業内容を工夫する。また、英検の積極的な受験を促す。 ・ICTを効果的に用いた授業について研究し、教科内で共有する。	B		
		・生徒の興味・関心・能力に応じた教材を選択し、AETを積極的に活用しながら、4技能を総合的に育成する言語活動を授業に取り入れる。また、適正な評価について研究する。	A		
家庭科	・実践的・体験的な学習を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。 ・基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、学んだ事を活用できる力を身に付けさせる。	・少子高齢化、成年年齢の引下げ、防災や安全、環境に配慮した生活等、社会の変化への対応を重視し、自らの生活課題の解決方法を探求し、問題を解決する力を育てる。 ・体験的な学習を中心とした授業を行うとともに、ICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ・体験学習ごとにレポート提出を課すことにより、学んだこと感じたことを自分の言葉で表現する力を養う。	B	B	・主体的な学びを重視し、体験的な学習を中心とした授業を展開した。 ・実習前の手洗い、アクリル板の利用、換気、消毒等の感染対策を徹底し、被服実習やグループワークを行った。 ・すべての授業でICTを活用し、図や写真、板書事項を効果的に提示することができた。
情報科	・課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を養う ・情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解をさせる。	・時代の流れに応じた授業内容となるよう、時事の話題を随時授業に取り入れ、様々な事象に対し、自らが問題を発見し、仮説をたて、情報を収集、分析した結果をふまえて仮説の実証に取り組ませる。 ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成を図るために、校内、校外で各種コンペティション（ビジネスアイデアコンテスト・地域活性化プログラム等）に積極的に取り組ませる。 ・基本的なコンピュータリテラシー（タッチメソッド・表計算・プレゼンテーションソフト等）を講義、実技を通して身につけさせる。	B	B	・時事問題をあらかじめ担当生徒に提供し、問題発見、仮説、情報収集、分析、さらにその結果をプレゼンテーションさせた。 ・グローバルネットワーク京都の取り組みに関わり、SDG'sに関わる情報収集及びポスターセッションにつながる素案をプレゼンテーションさせた。 ・多くの情報を収集しつつ、商品開発にグループで取り組ませ、校内コンペティションを実施した。 ・基本的なコンピュータリテラシーに取り組ませた。多くの生徒がタッチメソッドスキルを向上させ、表計算ソフトに関する知識と技術を獲得した。

学校運営協議会による評価	・新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事が一部中止になったものの、体育祭の学年別実施など工夫を凝らしながら実施できたのは良かった。 ・グローバルネットワーク京都の取組を活用し、生徒がプレゼンテーションをする機会を継続して設けてほしい。試行錯誤を繰り返させながら、グローバル化で生き抜く生徒を育ててほしい。 ・コロナ禍で、研修旅行を含め海外に行けない状況ではあるが、外国の人とコミュニケーションを図ることは国際理解・異文化理解において大切である。留学生を招いたり、ＩＣＴを活用したりしながら、外国の人と接する機会をつくってほしい。 ・読書活動については、最近ではタブレット端末やスマートフォンで読むことも可能である。電子書籍の活用についての調査をしてみてもどうか。 ・宇治田楽は宇治の伝統文化であり、今後も継続して取り組んでもらいたい。取組に参加しやすいように部活動として取り組んでもどうか。 ・ＩＣＴ活用については、一部の教員に負担がかからないように進めてもらいたい。
--------------	---

次年度に向けた改善の方向性	・質の高い授業を実践し、部活動をはじめ特別活動の充実を図りながら、本校の校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」をすべての教育活動で具現化できるよう努める。 ・３年間のスマートスクール推進事業の成果と課題を踏まえ、新学習指導要領の実施に向けたタブレット端末の活用を円滑に進めていく。 ・自転車の交通安全指導やスマートフォンやタブレット端末の利活用に伴う情報モラル教育を推進する。 ・これまでの特色化事業での取組の成果を生かし、新学習指導要領での「総合的な探究の時間」をより体系的、協働的に取り組める体制を築く。 ・今年度同様に学校説明会で在校生が中学生や保護者に語る機会を設け、菟道高校生の良さをアピールし生徒募集につなげる。 ・校内の施設設備について、可能な範囲で更新をして学習環境を整える。
---------------	---